

「社会的事象を多面的・多角的に思考・判断し表現する力の育成」

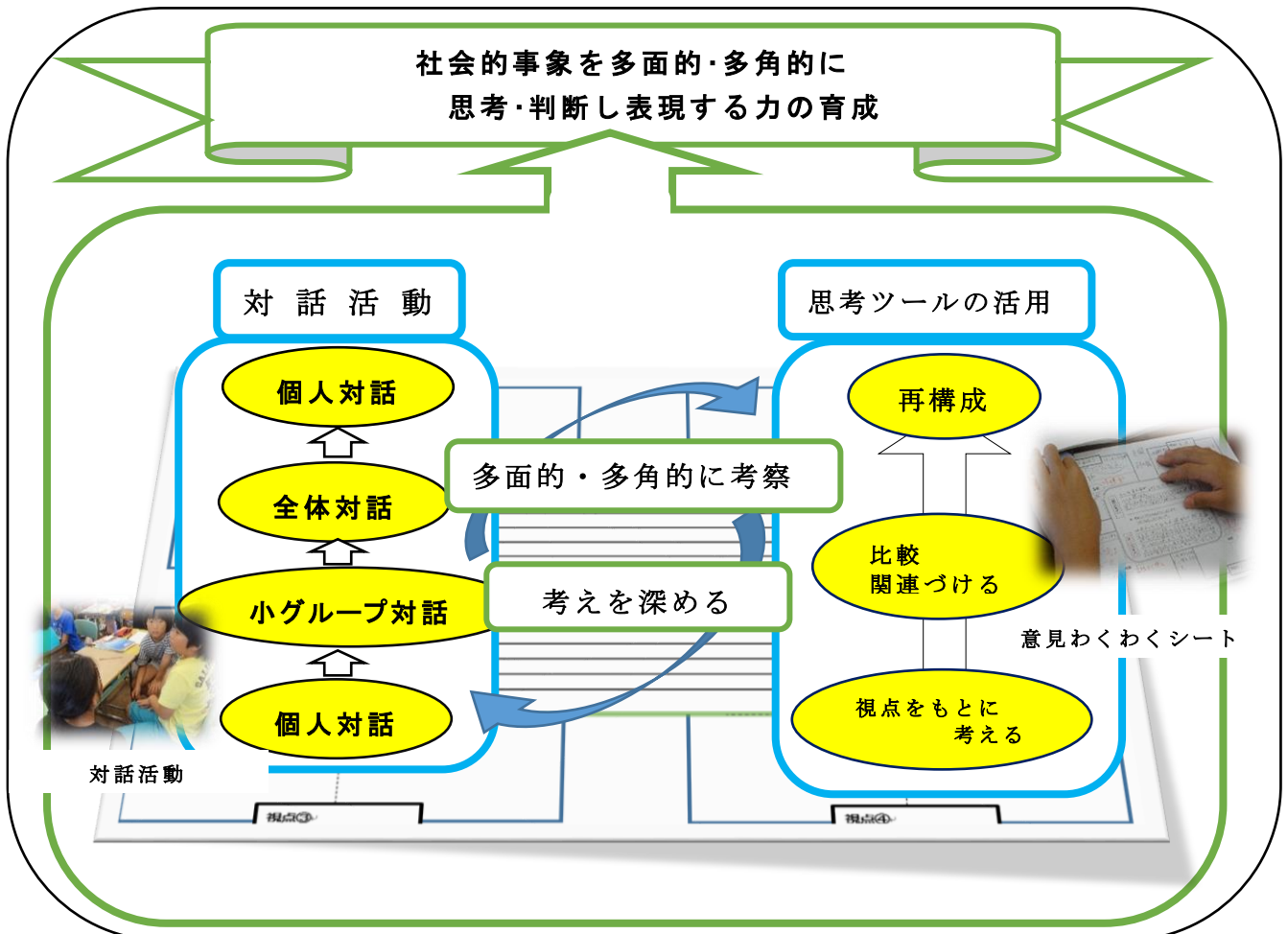
～思考ツールの活用と対話活動の工夫を通して～

那覇市立さつき小学校 玉那覇 周作

＜研究の概要＞

学習指導要領において「資料をもとに社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成」についての課題が指摘されている。そこで本研究では、多面的・多角的に考察する方法の工夫や、思考が深まる対話の形態の工夫の有効性について検証した。その結果、情報を整理する場において、「意見わくわくシート」を取り入れることで、情報を比べたり関連づけたりして考え、根拠を示して自分の考えを書くことができた。また、対話活動の場において、対話の形態を工夫することで、社会的事象について多面的・多角的に捉え自分の考えを深めることができた。このことから、社会的事象を多面的・多角的に思考・判断し表現する力が育まれたと考える。

＜研究のイメージ＞



目次

I	テーマ設定の理由	
II	研究目標	9
III	研究仮説	9
	1 基本仮説	
	2 作業仮説	
IV	研究構想図	10
V	研究内容	10
	1 「社会的事象を多面的・多角的に思考・判断し表現する力」とは	
	2 「社会的事象を多面的・多角的に思考・判断し表現する力」を育成するには (1)社会的事象を「多面的・多角的に捉える」とは (2)思考ツールについて (3)「意見わくわくシート」について	
	3 対話活動について (1)対話とは (2)対話活動の工夫について	
VI	授業実践（第4学年）	13
	1 単元名 大単元「健康なくらしとまちづくり」 小単元「ごみはどこへ」	
	2 単元目標	
	3 指導計画及び学習目標（全13時間）	
	4 本時の目標	
	5 授業仮説	
	6 本時の展開（13／13）	
VII	結果と考察	14
	1 作業仮説(1)の検証 【結果】【考察】	
	2 作業仮説(2)の検証 【結果】【考察】	
VIII	成果と課題	16
	1 成果	
	2 課題	

〈主な引用文献と資料〉

「社会的事象を多面的・多角的に思考・判断し表現する力の育成」

～思考ツールの活用と対話活動の工夫を通して～

那覇市立さつき小学校 玉那覇 周作

I テーマ設定の理由

現行学習指導要領において「資料をもとに社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成」が課題としてあげられた。それを受け、新学習指導要領においては、「社会的事象についての特色や意味、課題について多角的に思考・判断したことを論理的に説明したり議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重要視すること」が示されている。

本学級で行ったアンケートでは、「資料から情報を見つけることができる(72%)」「発表することが苦手(53%)」、「資料からわかったことをもとに自分の考えを書くことができない(75%)」、「根拠を示して自分の意見を書いたり説明したりできない(59%)」などの結果が見られ、基本的な資料の読み取りはできるが多面的・多角的に思考・判断したり根拠を示し論理的に表現したりすることに課題があることが分かった。

これまでの授業を振り返ると、社会的事象についての基礎的・基本的な知識・技能の習得を中心にした授業が多かった。社会的事象の特色や意味などの理解にとどまり、社会的事象について関連付けて思考、判断する活動や、社会の課題について多面的・多角的に思考・判断する活動を通して自分の考えを深め、表現する活動が十分でなかった。また、言語活動においても、調べて集めた情報やそこからわかったことをもとに考えを書き、表現する活動や他者との対話を通して自分の考えを深める活動も不十分であった。

そこで、本研究では、社会に見られる課題について思考・判断し資料などを活用して、その解決に向けて根拠を明確にしながら、説明や議論等の対話活動を通して、自分の考えを深め、表現する力を育むことを目指し本テーマ、「社会的事象を多面的・多角的に思考・判断し、表現する力の育成」を設定した。

II 研究目標

社会的事象を多面的・多角的に思考・判断し表現する力を育成するために、思考ツールの活用と対話活動の工夫を実践的に検証する。

III 研究仮説

1 基本仮説

社会科の学習を通して、情報を整理し思考を促す手立ての工夫や、思考が深まる対話の形態を工夫すれば社会的事象を多面的・多角的に思考・判断し表現する力を育むことができるであろう。

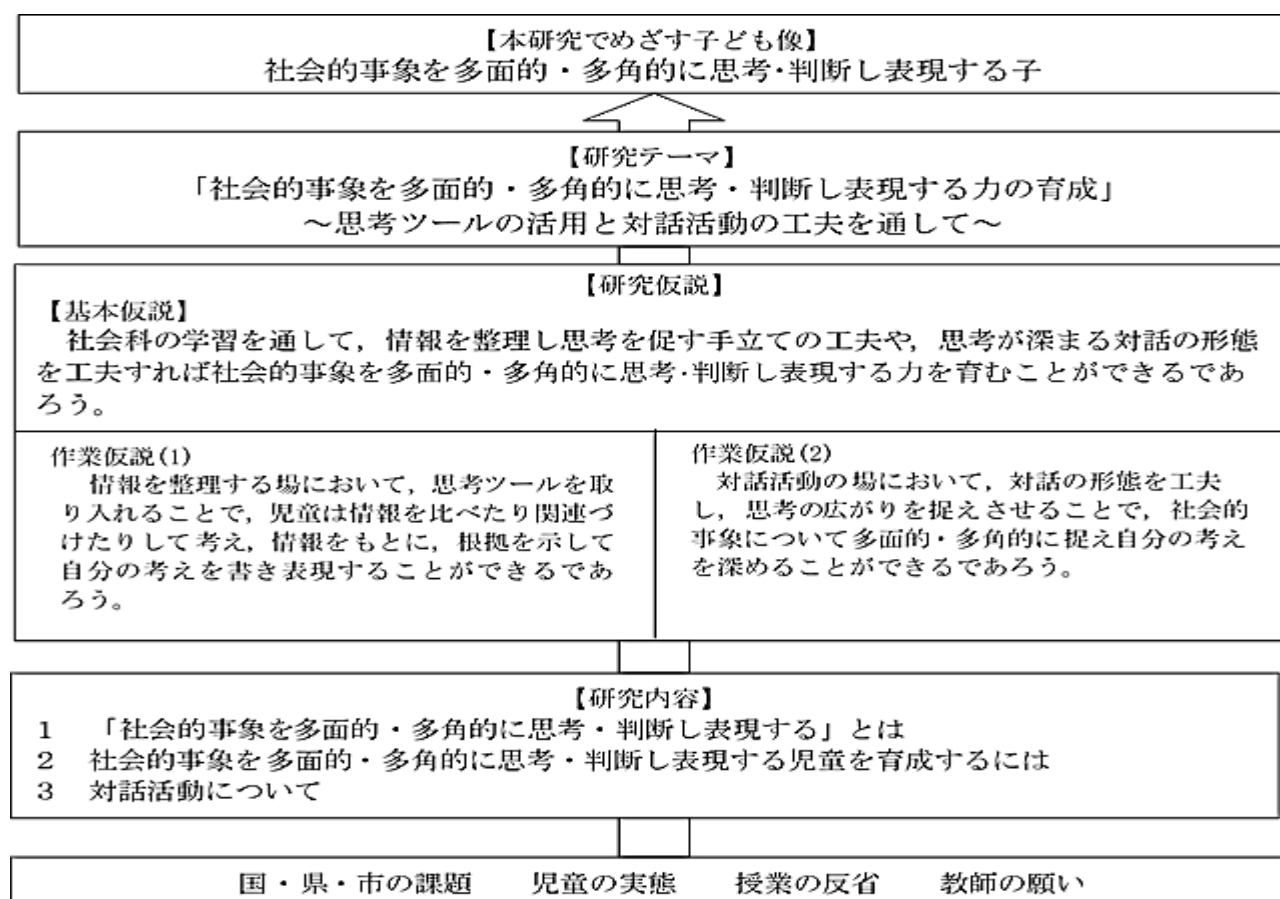
2 作業仮説

(1) 情報を整理する場において、思考ツールを取り入れることで、児童は情報を比べ

たり関連づけたりして考え、情報をもとに、根拠を示して自分の考えを書き表現することができるであろう。

- (2) 対話活動の場において、対話の形態を工夫し、思考の広がりをつえさせることで、社会的事象について多面的・多角的に捉え自分の考えを深めることができるであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容と方法

1 「社会的事象を多面的・多角的に思考・判断し表現する力」とは

新学習指導要領には、社会科の目標 1 (2) に「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う」とあり、社会的事象の特色や意味を多角的に考察する力の育成を重視し、社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の育成を目指している。

澤井(2013)は、小学校社会科では、思考力、判断力を「社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力」とし、「具体的には子どもがもっている知識(理解)や資料活用等で得た情報をもとに『比較』『関連』『総合』『再構成』などの思考方法を駆使して学習問題を追及・解決するために考える力である。」と述べている。また、表現力を「調べたことや考えたことを表現する力」とし「調べたこと、わかったことを図表や作品などにまとめて表現する力と考えたことを言語などで表現する力である。」と述べている。

本研究においては、思考力、判断力を育てる具体的活動(表1)を計画的に取り入れ実践に取り組んでいく中で「社会的事象の意味や意義に、特色や相互の関連について知識などを活用して多角的に考察し適切な資料や表現方法を選び、社会的事象について自分の考えを論理的に表現する」ことができる児童の育成を目指していく。

表1 思考力、判断力を育てる活動【筆者作成】

比較する	・社会的事象を並べて書、相違点や共通点を書き出す。
関連付ける	・社会的事象と資料との関連を考える。 ・社会的事象と実生活での体験との関連を考える。
総合する	・比較したり・関連付けたりして考えたことを基に整理し、文章にしたりする。
再構成する	・「比較」「関連」「総合」をもとに構成し直す。 ・話し合いをもとに構成し直す。

2 「社会的事象を多面的・多角的に思考・判断し表現する力」を育成するには

(1) 「社会的事象を多面的・多角的に捉え思考・判断し表現する」には

澤井(2013)は、思考力・判断力・表現力を育てる授業作りとして「社会科の授業では、話し合い活動を通して社会的事象を関係的にとらえたり、多面的にとらえたりすることによって、社会的事象の意味をより確かに理解するとともに社会的な見方や考え方を養うことが大切である。」と述べている。このことから、思考力・判断力・表現力を育てるには、社会的事象について多面的・多角的に捉えたことを表現する場の工夫が重要であると考えられる。

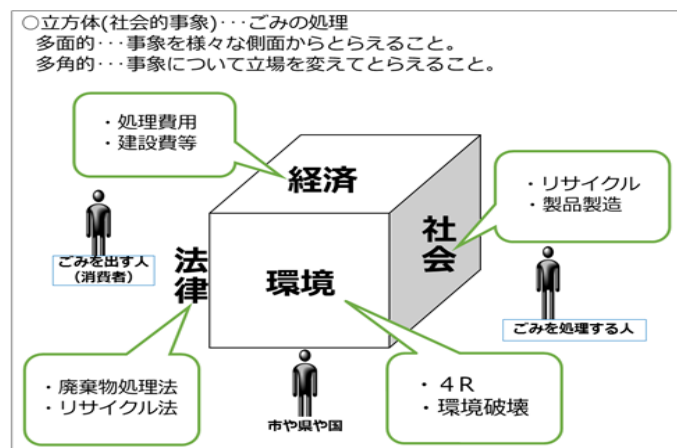


図1 「多面的・多角的」の捉え方【筆者作成】

本研究においては、「多面的・多角的」を図1のように捉え、研究を進めていく。社会的事象について多面的・多角的に考察・判断したことを、根拠を示して論理的に説明したり議論したりする場の工夫や情報を整理し思考を促す手立ての工夫をすれば、多面的・多角的に思考・判断し表現する力を育むことができると考え、実践に取り組んでいく。

(2) 思考ツールについて

田村(2013)は、「頭の中にある知識や新しく得た情報を、一定の視点や枠組みに従って書き出すツール」を「思考ツール」とし、「思考ツールを用いることで、思考力に差がある状況でも思考スキルを実現する枠組みを提供することができる。」と述べた。また、「思考ツールの価値」として、「①アイデアをものとして可視化する。②人の頭のリソースを借りる。③相互理解を助ける。④考えが明確になる。」と述べた。

このことから、思考ツールを活用し情報を整理したり、視点を与え思考させたりすることで、社会的事象を多面的・多角的な視点で捉え、思考することができると考える。

(3) 「意見わくわくシート」について

本研究では、思考ツールとして「意見わくわくシート」を取り入れる(図2)。その使い方を以下に説明する。①社会的事象について多面的・多角的な4つの視点を与える。②それぞれの視点から学習課題に対する自分の考えや根拠を書き込む。③考えや

根拠をもとに比較し自分の考え(最初の考え)を、根拠を示し書く。④対話活動で得た情報(意見や根拠)を視点ごとに書き入れる。⑤対話活動で得た情報をもとにして再構成(まとめの考え)を行う。

このように、意見わくわくシートの手順によって、社会的事象について多面的・多角的に捉え、思考を促す手立てとする。

情報を整理する場面において、意見わくわくシートの4つの視点について見学や調査活動

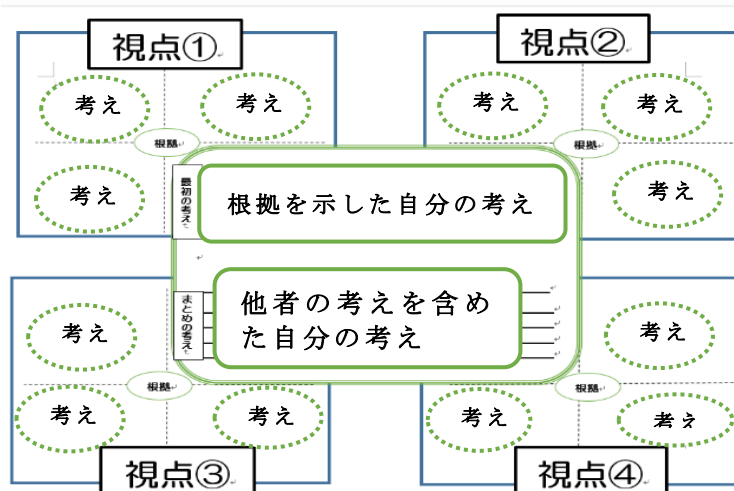


図2 意見わくわくシートの活用例

をもとに思考することで、児童は社会的事象について多面的・多角的に捉え、根拠を示して、自分の考えを書き表現することができるであろう。また、対話活動の場においても、意見わくわくシートに整理された情報を根拠にし、自分の考えを伝え合うことで思考の広がりを捉えることができるであろう。

このことから、社会的事象について多面的・多角的に捉え、思考を促す手立てとして、意見わくわくシートを取り入れることで、児童は情報をもとに自分の考えを書き、対話することで自分の考えを深めることができると思われる。

3 対話活動について

(1) 対話とは

道田(2009)は「他者・もの・自己との対話を促すことで、思考を高める道筋をイメージしながら対話のための場づくりをすることが、思考力を育てるための教師の役割と言えよう」と述べ、思考力を育てる場としての「対話」の重要性を述べている。

また、澤井(2011)は、社会科における資料活用の技能について「資料から得られる情報をもとにしながら自分の頭でしっかり考える子どもを育てたい。」と述べ、ものとの対話から考えたことを、自己との対話につなげていくことについて、「資料活用の技能を育てるということはただ、『技能を鍛える』『テクニックを磨く』ことではなく、社会科が目指す子ども像、根拠に基づき多面的に考えて公正に判断する子どもを育てることにつながる」と述べている。

本研究においては、対話の対象を「他者・もの・自己」とし、単元の中に「他者・もの・自己」との対話活動の場を設定し実践に取り組んでいく。

(2) 対話活動の工夫について

「言語活動の充実に関する指導事例集(平成22年)」において、論理や思考を育てる言語活動の充実のための指導に当たっての留意点として「ア 事実を正確に理解し、他者に的確に伝えること、イ 事実などを解釈し説明するとともに、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること」と示している。「互いの考えを伝え合うこと」や「自分の考えや集団の考えを発展させること」において、対話を重視し、対話活動の場を工夫することで思考力が高まると考える。

澤井(2015)は、話し合い活動の形態における作用(表2)をあげ、3つの形態を意図的に組み合わせることで思考力、表現力の育成につながると述べている。

本研究においては、対話を児童が思考する場に取り入れていく。対話の流れを個人対話→小グループ対話→学級全体での対話→個人対話とし、思考の広がりをとらえ、再構成させることで社会的事象について多面的・多角的に捉え自分の考えを深めることができると考え、実践に取り組んでいく。

自分との対話 (自己内対話)	・観察、資料の情報をもとに自分の考えを持つ。 ・小グループ、学級全体での対話をもとに自分の考えを深めることができる。
小グループでの対話	・確実に話し合える。 ・自分との意見の違いについて考えることができる。 ・少人数で伝え合うことで理解が深まる。 ・質疑を通して互いの考えを確かに行うことができる。
学級全体での対話	・根拠を増やし視野を広げることができる。 ・情報を整理、集約することができる。 ・様々な考えを出し合って理解を深められる。 ・集団での課題解決ができる。

表2 対話活動の形態における作用

VI 授業実践

1 単元名 大単元「健康なくらしとまちづくり」 小単元「ごみはどこへ」

2 単元目標

自分達が出すごみの種類や量、ごみ処理のきまり、処理の仕方や費用などを具体的に調べ、ごみが生活に密接に結びついていること、その処理やリサイクルが人々の協力と協力によって計画的に行われていることを理解させ、ごみを減らしていくために自分にできることを考えさせる。

3 指導計画及び学習目標

時	学 習 目 標	手 立 て
第1時	①写真や統計資料から情報を読み取ったり、グラフの特徴や変化について理解できるようにする。	・思考ツール ・対話活動
第2時	②家から出すごみの種類や量を調べたり、ごみの収集にきまりがあることに興味をもったりする。	・対話活動
第3時	③ごみの出し方や収集の工夫について理解し学習課題をつくることができるようにする。	・対話活動
第4時～ 第7時	④～⑦清掃工場を見学し、燃やすごみの処理の仕方や処理の工夫について調べることができるようにする。	
第8時	⑧資源ごみの処理の仕方とその行方を調べ、リサイクルを進めるうえで大切なことについて考えることができるようにする。	・思考ツール ・対話活動
第9時	⑨最終処分場での処理の仕方や、処理の工夫について調べるとともに、学習をふり返ってごみのゆくえについてまとめることができるようにする。	・思考ツール ・対話活動
第10時	⑩市のごみの量の変化と処理にかかる費用の変化について調べ、変化の理由を捉えることができるようにする。	
第11時	⑪市で働く人々が、ごみの量を減らすために取り組んでいることや、そこでの工夫や努力について調べることができるようにする。	・思考ツール ・対話活動
第12時	⑫市で暮らす人々がごみの量を減らすためにに行っている活動を調べ、どのようなことを大切にして活動しているのかについて考えることができるようにする。	・思考ツール ・対話活動
第13時	⑬学習したことをもとに、ごみの量を減らすために自分たちにできることを考え、根拠を明らかにして文章で表現することができるようにする。	・思考ツール ・対話活動

4 本時の目標

学習したことをもとに、ごみの量を減らすためにできることを考え、考えた根拠を明らかにして文章で表現することができるようにする。

5 授業仮説

対話活動の場において、「意見わくわくシート」を活用することで、根拠を明確にし自分の考えを伝え合うことで、思考の広がりをつかみ、社会的事象について多面的・多角的に捉え自分の考えを深めることができるであろう。

6 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1 前時までの学習内容を振り返る 2 学習課題をつかむ。	・ごみの現状やごみの量を減らすための取り組みなど、調べたことを振り返る。 ◎『ごみを減らすために、どのようなことをすればよいか考えよう』

展開	3 ごみを減らすためにできることについて課題を捉え3人グループで対話活動を行う。 4 全体での対話活動を行う。 5 自分の考えについて再考する。	・思考ツールを活用して相手の根拠と意の見相違点に着目し考えを伝え合わせる。 ・思考ツールの視点をもとに多面的、多角的に捉えさせる。 ・3人ミーティングや全体での対話をもとに考えを記述するように指示する。
まとめ	6 それぞれの意見を発表させ今日の学習のまとめを行う。 7 学習のふり返しを行う。	・「ごみ減量」に向けて根拠をもって考えること、一人ひとりができることに取り組むことが大切であることに気付かせる。 ・自己評価とともに、今日分かったこと学習内容のふり返しを行う。

VII 結果と考察

1 「作業仮説1」の結果と考察

情報を整理する場において、思考ツールを取り入れることで、児童は情報を比べたり関連づけたりして考え、情報をもとに根拠を示して自分の考えを書き表現することができるであろう。

【結果】本研究では、情報を整理する場において、児童は情報を比べたり関連づけたりして多面的・多角的に考え、根拠を示して自分の考えを書くための手立てとして、思考ツール(意見わくわくシート)を取り入れた。また、社会的事象について多面的・多角的に捉えて、考えさせるために視点を4つ(①私たち②那覇市・国③クリーンセンターの人④お店)与え意見について考えさせる学習指導を行い進めた。

図3は、抽出児Aの第12時の記述である。児童は、学習課題に対するそれぞれの視点についての考えや根拠を見学や調査活動、既習事項から書くことができていた。また、書き込んだ考えや根拠を比較・選択し自分の意見を書くことができた。

単元修了後、思考ツールに対し、「自分の意見をくわしくできる」「根拠を参考にできる」や視点を変えて考えることについて、「考えが深くなる」「いろんな人になりきることで、いろんな意見や疑問がわいてくる」等(表3)肯定的な感想を述べた。また、「根拠を示して自分の意見を書くことができますか」の問いに「よくできる」と回答した児童が25%から66%に増加した(図4)。思考ツールを使って情報を整理することが有効だと感じている様子が読み取れた。

【考察】図3の記述から、児童は意見わくわくシートに、自分の考えに対する根拠を書き込み可視化し、整理したり比較したりする中で根拠を示し意見を書くことができた。

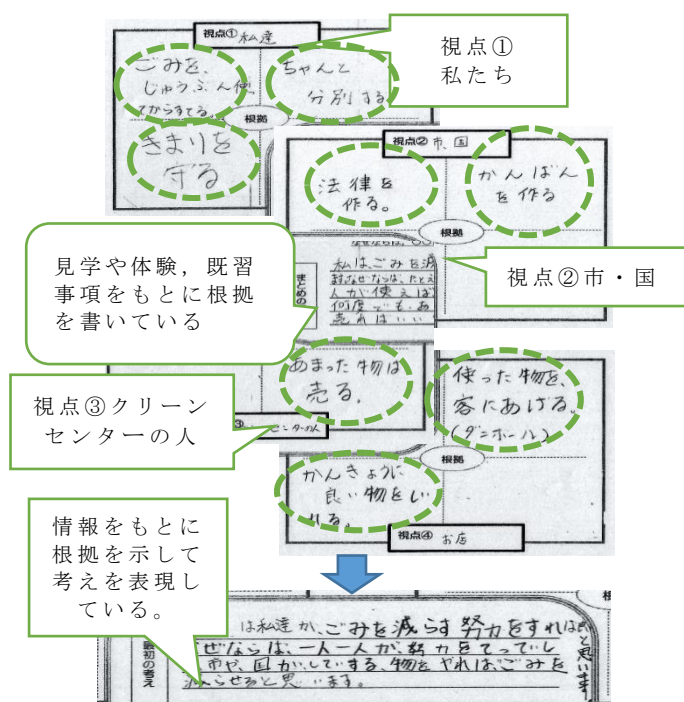


図3 抽出児A児の第12時の記述

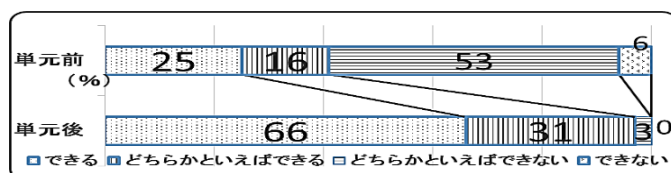


図4 根拠を示して自分の意見を書くことができますか

また、表3や図4アンケート結果から、いくつかの視点を与えることで「自分」という視点から「違う立場の人」へと視点を変え思考することで社会的事象について多面的・多角的に捉え考えを深めることができた。

これらのことから、情報を整理する場において、児童が情報を比べたり関連づけたりして考え、情報をもとに根拠を示して、自分の考えを書き表現するには、「意見わくわくシート」を取り入れることは有効であると考えられる。

2 「作業仮説2」の結果と考察

対話活動の場において、対話の形態を工夫し、思考の広がりをつえさせることで、社会的事象について多面的・多角的に捉え自分の考えを深めることができるであろう。

【結果】研究では、対話の形態を「個人対話→小グループ対話→全体での対話→個人対話」と設定し思考の広がりをつえさせるようにした。

図5は、抽出児Bのそれぞれの対話活動後の意見わくわくシートである。抽出

児B児は、まず初めに個人対話で、それぞれの視点について、見学や調査活動、既習事項などの体験から、個人の考えや根拠を書くことができていた。次に小グループ対話において、意見を伝え合う中で他者と自分との考えや根拠の違いについて、得た情報を比較・関連付けながら書き込むことができた。さらに、全体での対話において、それぞれの「視点」の意見や根拠を全体で話し合うことで「4R運動を行うことで環境が良くなる」「みんな（私を含めた全員）でリサイクルのための努力をする」等、対話活動を通して、自分と他者の考えや根拠について思考の広がりを捉えることができてい

表3 意見わくわくシートを使ってみての感想

- ・いろいろな根拠を取り入れて自分の考えをくわしくすることができる。
- ・根拠がたくさん書けて、それを参考にできる。
- ・視点を変えて自分だけの考えでなく（他の人の立場の）人々の考えることを想像しながら書けるといい。
- ・いつもは、自分だけの事を考えているけれど、いろんな人になりきることによって、いろんな意見や疑問がわいてくるからいい。
- ・他の人（違う立場）の気持ちを考えてやるのが楽しい。
- ・他の人になりきったら、普通に考えるよりも考えが深くなる。
- ・他の人になりきると、まわりの状態（社会の様子）がわかる。

対話の形態	視点 対話の形態	視点① (私たち)	視点② (市や国の人)	視点③ (クリーンセンターの人)	視点④ (お店の人)
個人対話後		・(お店で)袋をもらわな ・リサイクルをする ・環境が良くなる	・法律を作る	・ごみをできるだけ小さく する	・マイバックを持ってきたらう
小グループ対話後		・(お店で)袋をもらわな ・リサイクルをする ・環境が良くなる ・4R運動を行う	・法律を作る ・マイバックの呼びかけ ・良いルールを決め守る	・ごみをできるだけ小さく する ・修理して売る(リユース)	・マイバックを持ってきたらう ・リサイクルを増やす
全体対話後		・(お店で)袋をもらわな ・リサイクルをする ・環境が良くなる ・4R運動を行う ・環境が良くなる	・法律を作る ・マイバックの呼びかけ ・良いルールを決め守る ・リサイクルの呼びかけ →みんなで努力	・ごみをできるだけ小さく する ・修理して売る(リユース) ・4R運動をできるだけや	・マイバックを持ってきたらう ・リサイクルを増やす ・環境を良くする取り組み

図5 抽出児B児の記述の変化

【最初の考え】

私は、市や国の人のリサイクルや法律を増やせばいいと思います。なぜならば、法律やリサイクルが増えれば環境がよくなるし、生活がよくなるからです。

再構成後

【まとめの考え】

私は、私たちが4R運動や物は最後まで使うことを増やせばいいと思います。なぜなら、4R運動や物を中途はんばなところで捨ててしまうと、その残りがもったいないし、処理費用も増えるからです。それに、市や国の人たちは、マイバックの呼びかけをがんばってもらえばいいと思います。なぜなら、マイバックはずっと使えるからです。

図6 抽出児B児の記述の変化

た。社会的事象について多面的・多角的に捉え考えを深めることができた。

図6は抽出児B児の再構成後の記述である。最初の考えでは、「市や国の人」という視点で考えを書いている。対話後の再構成では、「市や国の人」という視点に「私たち」という視点の変化が見られた。また、最初の考えでは「環境」「生活」という側面を根拠に考えをまとめたが、再構成後は、「費用」という側面からも考えることができていた。対話活動を通して多角的・多面的に捉え考える様子を見ることができた。

対話活動において他者意見を聞くことで、社会的事象(ごみの減量)について多角的に捉え再構成することができていた。また、表3の児童の感想には、「他の人の意見を参考にしている」や「3人だと考えが増えるし、全員で考えると違った意見や根拠が聞けるから考えが広がる」など、対話活動に対して肯定的な意見が多く見られた。

【考察】

図5の記述から、対話活動を通して、自分と他者の考えや根拠について思考の広がりを捉え、社会的事象について多面的・多角的に捉え考えていることがわかる。また図6や表3の記述においても、対話活動を通して、多角的・多面的に捉え再構成することで自分の考えを深めることができていた。

これらのことから、対話活動の場において、社会的事象について多面的・多角的に捉え自分の考えを深めさせるには、対話の形態を工夫し、思考の広がりを捉えさせることは、有効であると考えられる。

表3 対話活動の感想

- 3人の意見をきいて、こんな意見があるんだな
と思い、参考にしたりしている。
- みんなで意見を言うとき、いろんな意見が集ま
って意見が深まる。
- 意見を出し合って答えを考えたらアイデア
がふえる。
- 一人だけの時は、自分だけの意見だけど、3人
だったら考えがふえるし、全員で考えると違
った意見や同じ意見だけど根拠が違ったりす
るから考えが広がる。

Ⅷ 成果と課題

1 成果

- (1) 情報を整理する場において、「意見わくわくシート」を取り入れることで、児童は情報を比べたり関連づけたりして考え、情報をもとに、根拠を示して自分の考えを書き表現することができた。
- (2) 対話活動の場において、対話の形態を工夫し、思考の広がりを捉えさせることで社会的事象について多面的・多角的に捉え自分の考えを深めることができた。

2 課題

- (1) 社会的事象について多面的・多角的に捉えさせるための資料提供の工夫や指導の工夫をしていく必要がある。
- (2) 対話活動の場において、意見の内容や根拠に乏しい等、個人差が大きいと感じた。意見内容の向上にむけて、自分の考えを論理的に説明したり表現する指導を継続的に行う必要がある。

《主な参考文献》

『小学校学習指導要領解説 社会科編』	文部科学省	東洋館出版社	2008
『授業を変える5つのフォーカス』	澤井陽介	図書文化	2013
『言語力が育つ社会科授業』	寺本潔・道田泰司	教育出版	2009
『思考ツールの授業』	田村学・黒上晴夫	小学館	2013